

Md. Manirul Islam 論文内容の要旨

主 論 文

A Qualitative Exploration of Drug Abuse Relapse Following Treatment

薬物乱用の治療後再発に関する質的研究

Manirul Islam, 橋爪真弘、山本太郎、faruq Alam, Golam Rabbani

Journal of Ethnographic & Qualitative Research・7 巻 36—51 2012 年

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻

(主任指導教員：山本太郎 教授)

緒 言

薬物使用は、バングラデシュにおける憂慮すべき重要な公衆衛生上の問題である。薬物使用者の多くは治療後再び薬物を使用するようになり、治療と再発の悪循環に陥っている。

本研究は、薬物使用者が治療後なぜ再使用を繰り返すのか、また、その要因を明らかにすることを目的とした。

対象と方法

調査の対象は、薬物使用者とその家族、介護者、担当医、ソーシャルワーカー、宗教上の指導者など。そうした人々を対象として、キーインフォーマント・インタビューを 5 件、インデプス・インタビューを 10 件、フォーカスグループ・ディスカッションを 2 件、ケーススタディを 3 件、観察を 8 件、薬物使用者とのインフォーマル・ディスカッションを 22 件実施し、その結果を質的にまとめた。

結 果

本研究では、薬物使用者に対する否定的姿勢、侮蔑が浸透しており、一方で使用者は薬物が極めて容易に入手できるという実態が明らかとなった。また、本研究は、個人主義的傾向が高い都市生活者が調査対象としており、宗教的統制や家族関係からなるサポート、野外でのレクリエーションといった社会的協力体制が失われつつある状況も明らかとなった。本研究を通して、個人、家族、社会、治療者の各レベルにおける治療後の再使用と、再使用に相互に関連する要因が見いだされた。これらの要因は以下のとおりであり、再使用の始まりとなるものと、再使用を促進するものが混在していた。個人レベルにおける要因：身体的もしくは精神的衝動、薬物密売人からの断続的な「招待」、薬物を容易に入手できる環境、性的機能の低下認識、宗教上の人間

関係から疎外されること、メンタルヘルス、疾病経過の認識不足。家族レベルにおける要因：治療・処置、薬物の副作用、フォローアップの欠如、また、病院での処置がすべてと考え、家族を含めた信頼関係や支援者に対する気配りなどが損なわれた場合、重大な再発要因となる。社会レベルにおける要因：薬物使用と無関係な人々の無関心。治療者における要因：フォローアップの重要性に関する助言が行われていない。

考 察

本研究の知見は、薬物使用者の治療後再発の減少につながる効果的な介入策を考案、実施するうえで有用である。

（備考）※日本語に限る。2000 字以内で記述。A4 版。